

MD050_SPF_COS_003 HHTシステム連携	説明: HHTシステムと各種データを連携する(INBOUND、OUTBOUND)	作成日	2008/06/17	作成者	ORACLE 木村	更新日	2009/03/13	更新者	SCS岡口	Ver.	Issue3.0
-----------------------------	--	-----	------------	-----	--------------	-----	------------	-----	-------	------	----------

#### 処理概要

EDI受注において営業車から出荷する場合、HHTシステムへ受注情報を連携する

#### システム利用者

システム管理者(自動起動)

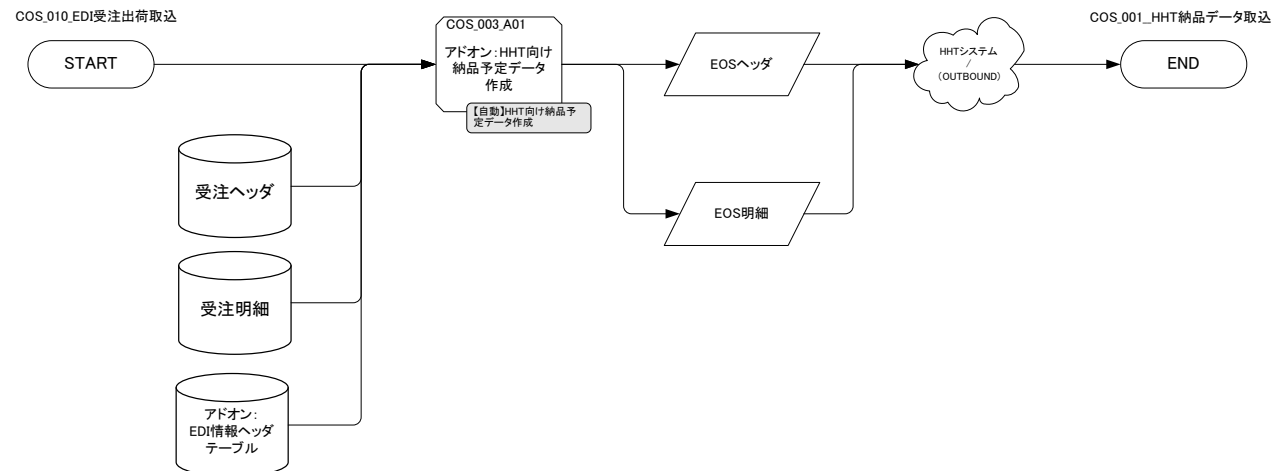
#### 処理タイミング、その他

日次定期実行(日次1回、現行HHTシステムは夕方受信)

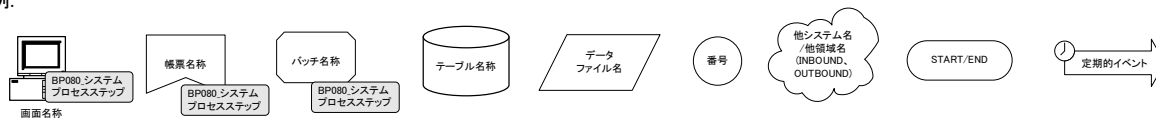
EDIシステムから当日受信したデータのみを対象とする

#### システムプロセスフロー記入時の注意事項

- 機能単位(標準機能含む)で記入すること
- INPUT、OUTPUTともにメインテーブルは必ず記入すること
- I/F機能の場合、相手先システムを記入すること
- 左上の枠内に処理概要、システム利用者、処理タイミング等を記入すること
- 1ファイル、1システムプロセスフローとすること
- フローが複数シートになる場合、(→① / ①→)のように番号でフローの繋がりを明確にすること
- 1システムプロセスフローはSTARTで始まり、ENDで終わること



凡例:



MD050_SPF_COS_003 HHTシステム連携	説明: HHTシステムと各種データを連携する(INBOUND、OUTBOUND)	作成日	2008/06/17	作成者	ORACLE 木村	更新日	2009/03/13	更新者	SCS岡口	Ver.	Issue3.0
-----------------------------	--	-----	------------	-----	--------------	-----	------------	-----	-------	------	----------

処理概要

HHTシステムへ単価マスタを連携する

システム利用者

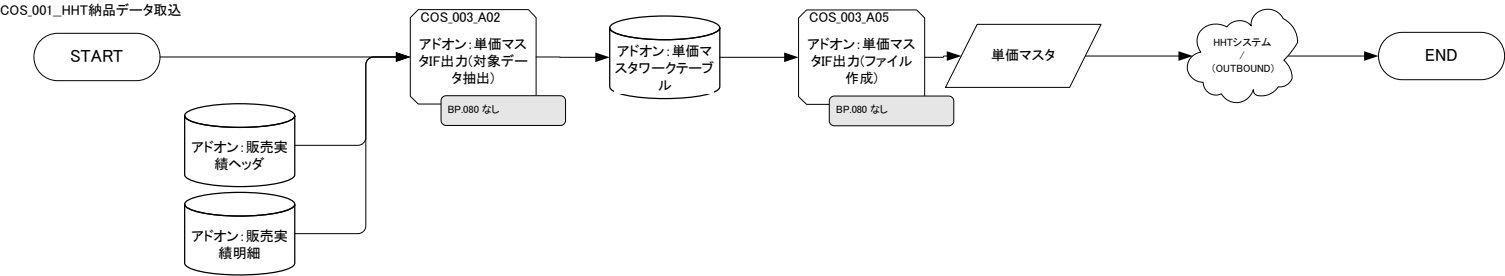
拠点、マスタ管理者、システム管理者(自動起動)

処理タイミング、その他

単価マスタは、日次定期実行(日次1回)、対象データは全件(但し、過去1年分)

システムプロセスフロー記入時の注意事項

- 機能単位(標準機能含む)で記入すること
- INPUT、OUTPUTともにメインテーブルは必ず記入すること
- I/F機能の場合、相手先システムを記入すること
- 左上の枠内に処理概要、システム利用者、処理タイミング等を記入すること
- 1ファイル、1システムプロセスフローとすること
- フローが複数シートになる場合、(→① / ①→)のように番号でフローの繋がりを明確にすること
- 1システムプロセスフローはSTARTで始まり、ENDで終わること



凡例:

